

情報端末を用いた英語科授業におけるリスニング・スピーキング指導の改善

ー情報端末を用いた授業デザインー

中筋千晶（元和歌山県海南市立下津第一中学校 現和歌山大学教育学部附属特別支援学校）

豊田充崇（和歌山大学）

概要：中学校英語科において、個に応じたリスニング指導の困難さやスピーキング指導におけるネイティブ発音への意識の向上等は共通の課題といえる。そこで、情報端末の映像・音声の再生機能、ネイティブ発音での読み上げをおこなうアプリなどを組み合わせることによって、個々の生徒のリスニング能力に応じた指導や生徒自身のスピーキング音声データを活かす場面を実現することによって、英語科授業の指導改善に役立てることができた。また、生徒評価や外部評価からもその学習効果が立証できたといえる。

キーワード：情報端末，英語授業の改善，スピーキング，リスニング

1 はじめに

中学校英語科においては、限られた授業時数の中で教科書全頁を扱わなければならない、主体的な活動の時間を見出すのが困難であり、生徒自身が自己の課題を捉え、解決する力を育成するには時間的な制約が大きい。

そのため、一斉授業で英文内容の理解レベルや、「書く、話す」の表現レベルにかかわらず、授業を進行して完結させる必要がある。生徒が「読んでいるつもり」でいても実際声に出してみると読めないという場面があったり、生徒が本当に英文の内容理解を達成しているのか、スピーキングの技能が獲得できているのかということのを正しく認識することも実際には難しい。

協働学習の重要性が示されて久しいが、教師個人の指導に限界がある中、共に学びあい、お互いが教え教えられる環境の中で活動できることは理想である。但し、英語の授業での懸念は、「知らない発音はできない」という点が挙げられる。このような状況の中、情報端末を活用した先進的な英語授業の事例では、ネイティブの発音を自分たちのペースで繰り返し聴いたり、自分の発音を録音して確認することで学習効果を高めているという。

確かに、スピーチ発表をする際、生徒の数だけ原稿があり、その音読指導をひとりの教師だけではできない。しかし、一人一台情報端末を持っていれば、それぞれに一人ずつ発音指導をする教師がつくのと同様の効果を得られる可能性がある。また、自分で英文を入力し、読み方のわからない単語を認識した上で、自分で解決できたという達成感も生むことになるであろう。

以上のことから、先行事例を踏まえて、これまで自らが抱えてきた英語指導の改善を図ることを目的に、情報端末を効果的に活用した英語授業を考察・実践することとした。以下に、その経緯と授業後の成果をまとめたい。

2 研究の目的と方法

(1) 授業改善の目標

以下の①～④は当英語授業の改善目標とそのため想定した学習活動を示している。これらを実現するための授業の考案・実践・効果の検証を当授業研究の目的とする。

- ① 自分の英語表現上の課題を見つけ、自ら解決していこうとする態度を育成し、自主的・主体的な言動を促す。
（自分のペースでネイティブの発音を聴いて、発音練習をすることができる。自分が理

解するまでリスニングやディクテーション問題を繰り返し聴くことができる。)

- ② 自他を評価することで評価の観点を意識し、修正を重ね、技能を習得する。
(自分の発音を客観的に確認することができる。同時に自他の発音を聴いて、その感想を共有することができる。)
- ③ 自他を認め、高めあう協働学習に取り組む。
(情報端末を介して話すことで雰囲気良くなり、相談しやすくなる。お互いに関心を持って学習に取り組む。お互いの表現や意見に傾聴し、より高い成果を得る。)
- ④ 意欲を高める。
(情報端末を使うことでモチベーションを上げることができる。録音することで適度な緊張感をもって臨み、表現することに意味づけができる。)

(2) 指導計画

- 以下の学年・対象者・計画に基づき、主に①②のアプリを用いて実践をおこなうこととした。
- ・ 中学校 1年(男子 20名 女子 10名 計 30名)
 - ・ 単元の指導計画

学習内容	情報端末活用 (0)
1 重要語句確認, ノート記入	
2 Unit11 Part1 5問ドリル(1), 規則動詞の過去形, ジグソー読み	
3 Unit11 Part1 5問ドリル(2), 前時の確認, 音読練習(iPad), 教科書の活動	0
4 Unit11 Part2 5問ドリル(3), 不規則動詞の過去形, ジグソー読み	
5 Unit11 Part2 5問ドリル(4), 前時の確認, 音読練習(iPad), 教科書の活動	0
6 Unit11 Part3 , Dictation4, 過去形の疑問文・否定文, ジグソー読み	
7 Unit11 Part3 5問ドリル(5), 前時の確認, 音読練習(iPad), 教科書の活動	0
8 まとめと練習, Listening Plus 5, 英作文	0
9 Dictation5, スピーチ練習 (iPad)	0
情報端末を使用した授業	5時間 /9時間

・以下の①②は、当授業で主に用いたアプリである。

- ① **Speak it!**…打ち込んだ英文をネイティブの発音で読み上げてくれるアプリ (アメリカ人男女, イギリス人男女の 4 種類の音声から選ぶ)。また、発音する速度を自分で設定することもできるので、ゆっくり聴いて読む練習から始め、徐々にスピードを上げナチュラルスピードに持っていくこと

ができる。また、読み上げている単語をアンダーラインで示すので発音している単語を確認しながら練習することができる。

- ② **MetaMojiNote**…本来は、デジタルノートアプリであるが、今回はその中の録音・再生機能を使用した。その他の候補アプリもあったが使用できる情報端末が初代 iPad であったため、OS のバージョンが適応できるアプリの中でこのアプリに決定した。

3 授業実践事例の記録

(1) 授業概要

1. 日時 平成 28 年 2 月 23 日(火)5 限・6 限
2. 学年 1 年(男子 20 名 女子 10 名 計 30 名)
3. 場所 海南市立下津第一中学校 LL 教室
4. 単元 NEW HORIZON English Course 1
Unit 11 一年の思い出
5. 教材について

文法事項として、規則動詞の過去形、不規則動詞の過去形、過去の疑問文を学習した後の授業で扱う教材であり、過去形を習得したことで表現の幅が大きく広がる場所である。

そこで、過去形を使って自分の一週間を英作文で表現し、情報端末のアプリを使って生徒自身が音読モデルを作成し、既習未習の単語を含む英文の音読を可能とする教材を使用している。

(2) 授業の流れ

- ① 5 時限目:公開授業 1(英語科:中学 1 年)

映像教材を情報端末で個別利用し自主的にトレーニングする実践事例

- ・ 班で情報端末に入っている動画を使って教科書本文の音読練習をする。
- ・ **MetaMojiNote** の録音機能を使って自分の声を録音して提出する。
- ・ 録音した音声をヘッドホンで丁寧に聴きながら相互評価をする。
- ・ 教科書のリスニング、ライティングの活動で復習する。



図 1 左写真：聞き取りと右写真：振り返りの様子
英文入力・英文読み上げ機能や生徒音声のレ

- コーディング・共有・評価をおこなう
- ・Dictation（書き取り）をする。一斉→個人→答え合わせ
- ・前時 Speak it!で作成した音声モデルを参考に音読練習する。

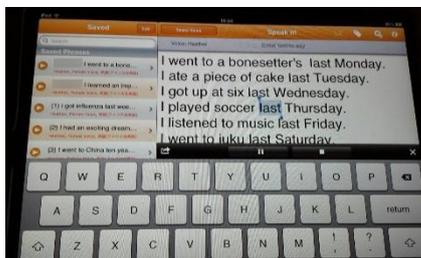


図2 Speak it!の実際の授業中画面（生徒）

- ・MetaMoj>Noteで録音して自分の音読をイヤホンで確認しながら練習する。
- ・自分の作文にあった絵を描く。
- ・ペアでスピーチを聞きあって相互評価する。

3 結果（実践の評価）

（1）「振り返りシート」の自由記述より

スピーチ練習において、普段の英語の授業についてくるのが難しい生徒の、授業1回目の感想は「何て読んだらいいかぜんぜんわからなかった」だったのが、個人的に練習したのちに「練習では普通に読めた」と変わっていた。自信を無くしている生徒が「普通に読めた」という感想を持てるに至ったのは情報端末活用による個別学習の成果であると考える。

成績が上位の生徒であっても、1回目は「習っていない fever とか headache の発音が難しかった。」と書いていたが、2回目では「自分としてとても流暢に読めたと思う。速さも良かったと思う」という感想になっていた。

音読の練習においては、成績上位の生徒の感想を見ても、1回目は「新しく出てくる語句の所ですることがあったので、New Wordsをもっとやれば良かったかなと思った。」と自ら課題を見つけ、それを意識して練習した結果、2回目では「前よりも早く言えるようになってきた」3回目では「分からない単語の発音を何回も聞いたので完璧にできました」と自分自身で課題を解決できた様子が見えたと感じた。英語が苦手な

授業にも積極的でなかった生徒が、1回目「発音をがんばったが声の大きさが足りなかった」、2回目「声の大きさとかがだいぶ良くなった」、3回目「途中で止まった」、4回目「流暢に読めるようになってきたので次はスラスラと読めるようにしたい」と変化を見せていった。また、この生徒は通常の授業では教師がそばにいないと活動に取り組まないことが多いが、情報端末を使用した場合は自分のペースで自己の課題に取り組んでいた。

（2）授業アンケートより

生徒には、ARCSモデルを参考にした「学習意欲調査」を行った。

「音読練習の学習意欲調査」

- 1 iPad と動画、録音アプリで音読練習をすると知ったとき、音読練習をしやすいという印象を持った。
 - 2 iPad と動画、録音アプリで音読練習を始めたとき、興味を引きつけられた。
 - 3 iPad と動画、録音アプリを使った音読練習は、自分が期待した以上に難しかった。
 - 4 この音読練習の手順を聞いた後で、音読練習から何を学習するのかわかったので自信をもって練習に取り組めた。
 - 5 iPad と動画、録音アプリを使った音読練習を終えたときに、十分な達成感があり、満足した。
- *実際の調査では、上記のような内容で30項目を作成して実施した。スピーチ練習においては、「録音アプリ」を別の名称に変更するなどした。
- *回答は、"かなりあてはまる(4点)" "まあまああてはまる(3点)" "あまりあてはまらない(2点)" "全くあてはまらない(1点)"の4件法
- *反転項目は処理した結果を使用している。

その結果、全ての質問の一人当たりの平均を出したところ、4点中3点以上の評価をしたのは28人中(2名欠席)、音読練習では25人、スピーチ練習では28人であった。約9割の生徒が満足した結果を示している。また、「ICT活用授業に関するアンケート」において、回答は学習意欲調査と同じ4件法であるが、3点以上の評価をしたのは「自分が読めるようになるまで十分に練習ができたと思う」(93%)、「音読活動でiPadを使ったほうが一斉練習より練習効果が上がったと思う」(93%)、「iPadを介してペアやグループで協力することが増えたと思う」(100%)、「iPadを共有することで相談しやすい雰囲気

なったと思う」(96%)「録音することで自分の音読を客観的に評価できたと思う」(96%)をいう結果となった。26問すべての問いの平均の中で3点以上の評価は82.1%であった。

(3) 参観者評価

公開授業の参観者(教員)からは以下のようなコメントを得た。(①～④の数値は授業の改善目標との関連で筆者がつけたものである)

- ・メディアを渡すことで自分達でその課題を遂行している。メディアが一つはいることで生徒に時間配分を考えさせて、「何分で何をしなければならぬ」というところに持っていかけている。①
- ・個別に練習できるのはよい。①
- ・もう一回やる、やり直したいという気持ちを起こさせている。②④
- ・互いに関心をもって取り組んでいる。③
- ・iPadを共同注視している。③
- ・気がそれることなく集中していて驚いた。④
- ・マイクがあることで発表しやすい雰囲気を作っている。活動の演出につながる。④

このような回答を得られたことにより、当初の授業改善の目的にあった「①自分の英語表現上の課題を見つけ、自ら解決していこうとする態度を育成し、自主的・主体的な言動を促す。②自他を評価することで評価の観点を意識し、修正を重ね、技能を習得する。③自他を認め、高めあう協働学習に取り組む。④意欲を高める。」について、参観者からの評価において概ね確認されたといえるであろう。

4 結論

生徒に必要な範読ビデオや録音アプリなどの教材を手渡し、自分たちの音読練習における課題を見つけ、その解決に向かうという、主体的・自主的に学ぶ姿勢を育てるために、この音読指導の授業設定をした。その結果、どの単語が読めないのか、どうしたら流暢に読めるようになるのかなど、自分たちの課題を解決しながら学習に取り組むことができた。

また、自分の音声を確認することができ、他人の音声にも意識して耳を傾ける活動も増え、生徒同士がお互いを気に向け、認め合える機会を与えられた。

スピーチ指導においては、英文読み上げアプリを手渡し、学習に取り組みさせた。生徒一人ひとりの自作英文(スピーチ原稿)を授業の後に文法的に添削することはできても、音読指導までは不可能であった。この長年解決することができなかった指導上の課題を、情報端末を用いたことで解決できた。また、原稿をテキスト化することで視覚的にも、もう一度印象付け、自分が作成し入力した英文を読み上げた模範音声が出来上がり、それを聴き音読練習していく過程で生徒の主体的な姿勢が育っていったと考えている。

参考文献

- ・ J.M.ケラー(2010)学習意欲をデザインする ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン. 北大路書房
- ・ 中岡正年, 豊田充崇(2013) グループ活動におけるタブレット端末を有効活用した授業実践モデルの検証. 和歌山大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 No.24, 1-8
- ・ 篠崎伸子(2014) 中学校英語科における英語のコミュニケーション能力を育成する授業の開発ータブレット端末を使った継続的なプレゼンテーション活動を通してー. 授業実践開発研究 第7巻, 7-15
<http://ace-npo.org/fujikawa-lab/file/pdf/bulletin/2014/04shinozaki.pdf>
- ・ 高澤郁男(2013) 中学校英語におけるタブレット型端末を活用した発音指導の事例的研究 中学校英語におけるタブレット型端末を活用した発音指導の事例的研究
http://www.nipec.nein.ed.jp/kyouiku-db/haken-shuusi/h_25/49takasawa.pdf